

ニッポン ドクター和の 臨終区巻



僕は今度の誕生日の6月30日で65歳、すなわち高齢者の域に入ります。第二の人生を颯爽(さっそう)と踏み出そう決意しつつ、不安が同居しているのもまた否めません。

令和3(2021)年の簡易生命表によれば(コロナ前のデータですが)、65歳まで生存している日本人の割合は男性で90%、女性で95%。ちなみに男性の場合は75歳まで生存できる割合は75%、つまり4人に1人は後期高齢者になる前にあの世に行くというわけです。

確かに僕の同年代の友人知人も10人に1人はもう旅立ってしまった。自分と同じ年齢で鬼籍に入った人の報せに接するたび、気落ちします。そう、このスーパースターも同じ年でした。

昭和51(1976)年に宮崎県都城農業からドラフト1位で広島

310 元プロ野球選手 北別府学



カープに入団。同チームの黄金時代を支え、通算213勝。引退するまでの19年間でリーグ優勝を5回、日本一に3回も導いた昭和の名投手、北別府学さんが、6月16日に広島市内の病院で亡くなりました。享年65。死因はかねてから闘病しておられた白血病、このこ

と。長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長。1995年に広島市で開業した長尾クリニックを65歳になる6月末で卒業。今後新たな形で医療に携わっていく。24日には神戸で「卒業ライブ」を決行。詳しくは長尾和宏オフィシャルサイトにて。

北別府さんは、2019年11月に、成人T細胞白血病(ATL)と診断を受けました。20年1月に、ご自身のブログで病气と闘う決意を公表。同年5月に骨髄移植手術を受けました。

白血病は血液のがんの一つです。さまざまな種類があり、「骨髄性」か「リンパ性」か、そして「慢性」か「急性」かに分けられます。

しかし北別府さんが罹患(り)されたATLは、上記とはまた別のタイプであり、ヒトT細胞白血病ウイルス

(HTLV-1)が原因で発現、白血病の中でも治療が困難とされる難治性がんに当てはまります。

このウイルス感染は西南日本沿岸部に多く、かつては「風土病」とされていましたが、現在は全国に拡大しているようです。主に母親から母乳を介して乳幼児の頃に感染しますが、発症率は非常に低く、感染者の5%未満です。

北別府さんは骨髄移植に成功されましたが、その後、尿毒症や敗血症に苦しめられたことをブログにつづっています。その度に不屈の精神で乗り越えてきました。

しかしこの春、骨髄移植の合併症であるGVHDで入院。2月からは妻の広美さんがご本人に代わってブログを更新されていました。

生前最後のブログは6月12日。

「もうすぐ父の日だよ、がんばれ!!」というタイトルで、お子さんが北別府さんのために買ったというリクライニングチェアの写真とともに、「この椅子に座れなくとももう一度帰宅させてあげたいという思いで毎日、拭いています」と。父の日の2日前に旅立った北別府さん。その魂は自宅に帰り、新しい椅子でくつろぎながら広島戦を応援していることでしょう。

病と闘い続けた不屈の精神